

マンガ 終身旅行者

[原作] 木村 昭二 [作画] 夏生 灼

 PanRolling Library

近年、グローバルゼーションの波が日本にも押し寄せ、日本人のライフスタイルが徐々に変わってきています。インターネットの発達や、各種規制緩和の影響で国家間の垣根が低くなり、人、物、金、情報が世界を自由に動いていることがその理由です。

人の面では観光・商用旅行を問わず、ビザ制度の簡素化で国家間の人の流れはますます自由になっています。物の面では貿易の自由化が進み、経済的合理性が働き、安価な品物が日本に入るようになりました。金の面では1998年の外為法の改正で、有利な運用先を求めて、海外に資金が動いています。情報の面では、インターネットを通じて、誰でも世界中の情報にアクセスすることが可能です。

このような環境下で、島国に住むわれわれ日本人の生活にも国外の世界が入り込んできています。例えば、定年後に夫婦そろって海外で長期に滞在する人たちが増えました。また、中国製品の台頭によってさまざまな製品が安価になっています。さらに、海外の銀行や証券会社で資金を運用する学生や主婦も増えています。海外のインターネットサイトで直接物を購入することも特別ではなくなりました。

他方で、そういった自由化にストップをかけるような事件も起こっています。米国で発生した同時多発テロです。あの事件以降、世界の流れが変化しました。自由化に逆行して、規制をかけようという動きです。

例えば、米国では滞在ビザ発行が厳しくなりました。また、このマンガのなかにも出てくる「税金がかからないオフショアセンター」については、マネーロンダリングを排除するため、規制が厳しくなっています。

世界では、グローバルゼーションが拡大する一方で、その拡大にストップをかけるという相反する現象が起こっており、世界情勢はますます複雑化しているのです。

「終身旅行者」とは、このように複雑化している世界を相手に、日本一カ国のみに分のライフスタイルを委ねるのではなく、複数の国々をうまく使い分けて、したたかに生きていく究極のライフスタイルです。これを欧米では「パーマネント・トラベラー」、略して「PT」と呼びます。「PT」には「Perpetual Tourist (終身観光者)」「Passing Through (通り過客)」「Parked Temporarily (一時滞在)」「Possible Thinker (可能性を思案する人)」などの意味も含まれています。「PT」は、欧米では高額な税金の支払いに悩む富裕層や、人生に前向きで開拓精神旺盛な個人に認知されています。

では、実際に「PT」とは、どのようなスキームなのでしょうか。その言葉の意味からも察することができるかと思いますが、簡単に言えば次のようになります。

ある国の居住者になれば、当然、その居住国において納税の義務が発生します。そこで、定期的に居住する国を替えて、税務上、どこの国の「居住者」にも属さない「終身旅行者」となるのです。もう少し具体的に言うと、ある国に滞在して、滞在日数が税法上その国の「居住者」となり、高額な納税義務が生じそうになったら別の国に移り住み、またそこで滞在日数がその国の税法上「居住者」になりそうになったなら、またまた別の国に引越しをするというものです。

さらに終身旅行者には、単純な節税目的のみならず、「複数の国を使い分けることで、ライフスタイルのリスクを分散させる」意味合いがあります。その分散について、終身旅行者のライフスタイルを突き詰めた結果、PTの基本原則「5つのフラッグ（旗）理論」という概念が生まれました。5つのフラッグは、以下のとおりです。

第一のフラッグ…国籍を持つ国

第二のフラッグ…ビジネスを営む国

第三のフラッグ…居室を持つ国

第四のフラッグ…資産運用を行う国

第五のフラッグ…余暇を過ごす国

これらの国々を、用途に応じて使い分けるといふ理論なのです。

「PT」という概念は、一般的には、1964年にハリー・D・シュルツが『How to Keep Your Money and Your Freedom』の中で発表した概念が、その始まりといわれています。彼は、セカンドパスポート（第二のパスポート）を持つ必要性があること、自国外の安全な場所に資産を置くこと、法的住所をタックスヘイブンに置くことを唱え、独自の3つのフラッグ理論を提唱しました。

この理論はその後、通常のビジネスを営んだり、余暇を過ごす国を加えた、5つのフラッグ理論へと発展します。シュルツの理論に影響を受けたW・G・ヒル博士は、自らPTのライフスタイルを堪能した後、1989年に、新たなアイデアを取り入れ、『PT』と題する本を出版しました。ここで、ほぼPTの概念が固まったと言われています。

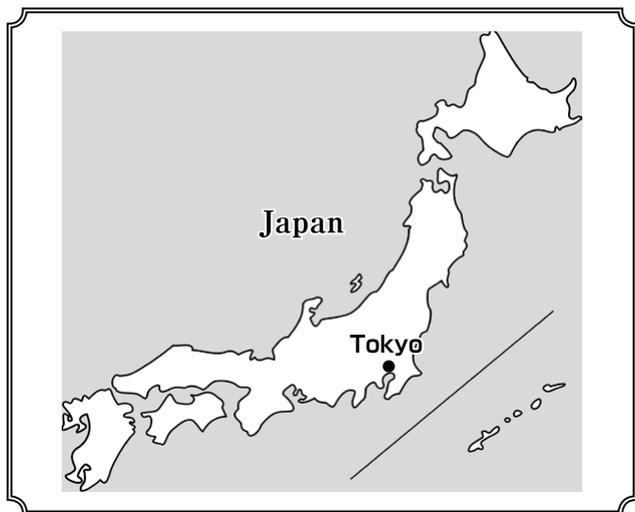
さて、前置きが長くなってしまいましたが、いよいよ終身旅行者の世界に入っていくことにしましょう。

2009年3月

木村 昭二

第1章

日本・東京



Tokyo, Japan

人物紹介



ハラアキ

主人公。大学を卒業後、日本の金融機関に勤めるが5年で退社。現在はPT（終身旅行者）として各国を回っている。バヌアツ在住。



ケイイチ

ハラアキの大学時代の友人。公認会計士・税理士。大手国際会計事務所であるKCMG会計事務所に勤めている。頭も顔も良いが、ちょっとキザで女好きなのが玉にキズ。趣味はマリンスポーツ。日本在住。



カオリ

JJエアラインの国際線客室乗務員。ハラアキが銀行員時代に知り合った友人。仕事柄、海外事情には詳しい。かなりの美人でスタイルも抜群だが、性格はキツイ。ブランド好き。日本在住。



ユウコ

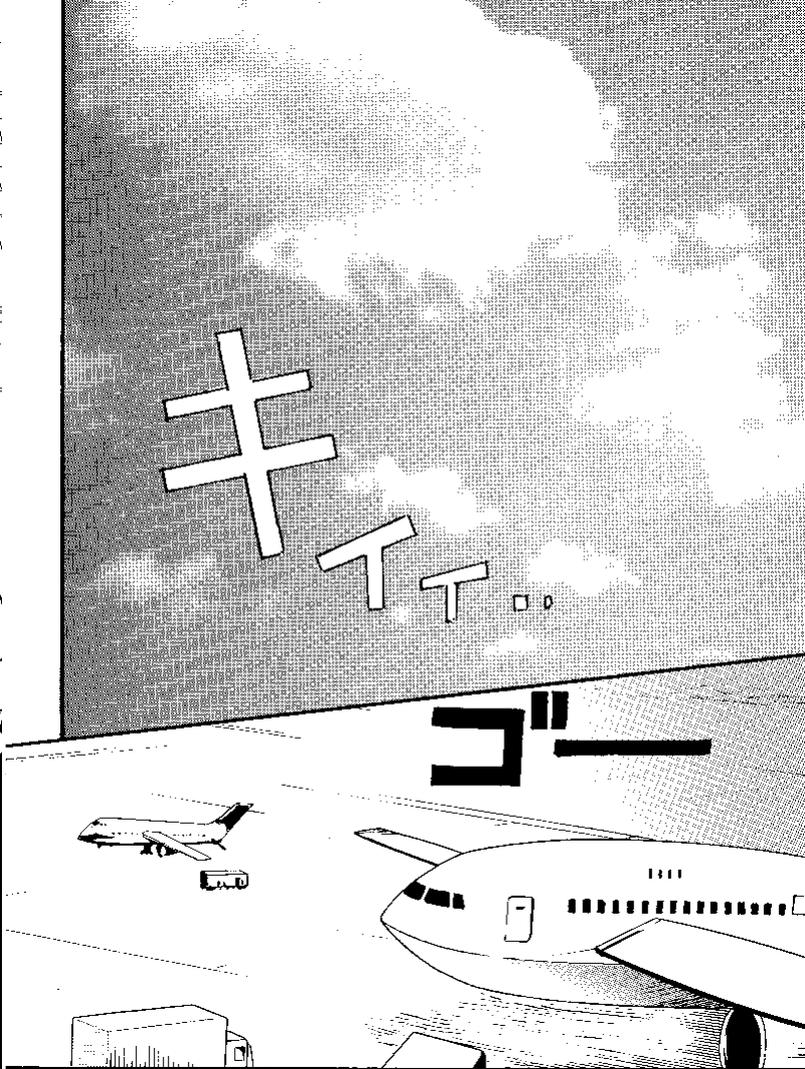
ダイビング好きが高じてバヌアツに住み着いた。現在はダイビングのインストラクターをしながら、個人輸入代行の会社で事務員をしている。バヌアツ在住。

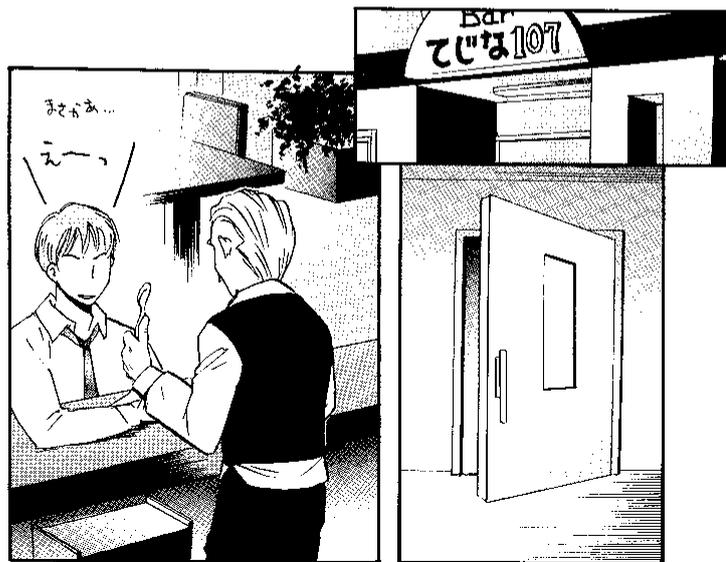
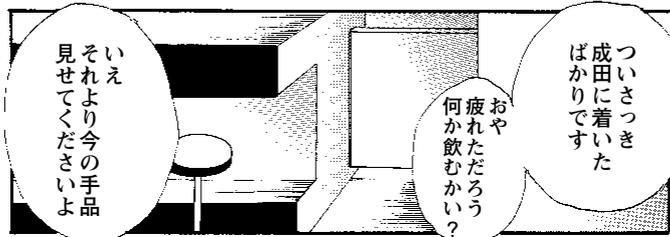
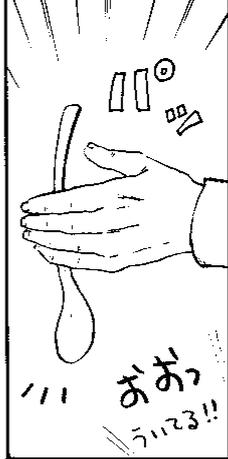
Contents

はじめに	2
人物紹介	6
第1章 日本・東京	7
第2章 イタリア・カンピオーネ	79
第3章 中国・香港	171
第4章 バヌアツ・ポートヴィラ	211
おわりに	254
付録1 PTに必要な知識【ビザ・市民権・永住権】	257
付録2 PTに必要な知識【オフショアセンター】	262
付録3 PT用語辞典	285

【免責事項】

この本で示してある方法や技術、指標が利益を生む、あるいは損失につながることはないかと仮定してはなりません。この本の実例は、教育的な目的でのみ用いられるものであり、この本に書かれた手法・戦略による売買を勧めるものではありません。







このマジックパー
107の
オーナーは

昔は船医として
世界中を
渡り歩いていた
すごい人だ

俺は
その生き方に
すっかり
心酔して
しまった

そーいや
ユウコちゃん
はバヌアツで元気に
してるかい？

相変わらずですよ
毎日ダイビングの
インストラクターです
本業の通販会社より
熱心になってますね

君は終身旅行者の
生活には
慣れてきたかい？

いえ：
まだまだです
昔のオーナーのように
世界中を回るのは
難しいです

まあ私は
特殊な状況
だったからね

私の年代で
100カ国近くも
行ったことのある
人間は少ないだろう

——このまま
日本で真面目に
開業医なんかしていたら
狭い世界で一生が
終わってしまう

もっと
広い世界を
見てみたい！

だから私は
貨物船の
船医になった

あの当時
自由に海外に
行くのは
難しかった

ビザの問題
だけじゃない
なんといいても
1ドル360円の
時代だ

外国旅行
なんて
夢のまた夢
だったよ

私が世界を回るのは
船医くらいしか
手がなかったんだ

